

平成 30 年度 宮崎県立宮崎西高等学校・宮崎西高等学校附属中学校 学校評価 (自己評価および学校関係者評価)

学校経営方針	生徒一人一人の潜在能力を引き出す学校(未知の我を求めて) 生徒があらゆる分野で日本一を目指す学校(高い志の醸成と実現) 国際社会で広く活躍する逸材を輩出する学校(グローバル化への対応)	学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。
本年度の重点目標	1 知力の向上(進路の実現) 2 西高ブランドの確立(学校の特色) 3 保護者・地域との連携 及び 保健・環境の充実(学校の社会性、生命の安全) 4 附属中学校の充実(知性・人間性・創造性の育成)	評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

重点目標	評価項目	取組	方策・手だて、結果の考察・分析及び改善策 など	自己評価	学校関係者評価	
						具体的意見
知力の向上	1 さくら手帳*1 やコーチングブック*2 を活用し、自ら学ぶ生徒を育成する。	・生徒自らが、行事予定の確認および授業や行事等の振り返りにさくら手帳の活用を行う。 ・クラス担任が、生徒理解や支援の手立としてコーチングブックの活用を行う	・さくら手帳は、高1生のみ全員購入、他は希望者購入とし、毎月1回、朝の読書の時間(10分間)を用いて、行事予定と各種記録の記入指導を行った。また、生徒のアンケートを基に内容を改訂した。今後はポートフォリオとの連携を工夫していきたい。 ・コーチングブックは、各クラス担任が日々細かくコメントを記入し、生徒理解や支援に役立てることができた。特に、高3生の心理的なフォローに有効であった。	3	3	・さくら手帳やコーチングブック等のきめ細やかな活用は素晴らしいが、生徒自身が自分なりのマネジメント方法を模索する指導もあってよいのではない。 ・行事予定の把握については将来役に立つと思われる。コーチングブックについては、虐待、いじめなどの把握に期待できる。 ・コーチングは生徒指導とは別に専門的な研修の必要背も感じます。今や企業の重要課題はコーチングです。 ・学習指導要領も変わるし、教師の授業力向上はますます重要になると思う。
	2 授業改善及び教科指導力を向上させる。	・教科指導研究会、授業評価を実施し、授業改善を行う。 ・高大接続システム改革にも対応できる指導力を培うための研修を行う。	・年4回の教科指導研究会を設定し、研究授業や研究協議を通して、新共通テストや新学習指導要領をテーマに各教科での研修の機会を設けることができた。 ・生徒による授業評価を実施し、教師側の授業改善の一助とした。 ・新教科「総合的な探究の時間」についての職員研修を実施した。次年度新入生からの実施に向けて、カリキュラムの検討を行った。	3	3	
	3 読書活動の充実を図る。	・朝の読書活動の更なる充実を図るとともに、良書の選定に努める。	・副担任を中心とした指導の成果もあるが、ほとんどの生徒が朝読書の必要性を自覚していることもあって静かに読書をする習慣が出来た。しかし完璧の域には達していないので、職員の協力を仰いで更なる充実を目指したい。 ・図書部の職員並びに生徒図書委員が協力し、図書を選定にあたった。それにより生徒にとっても良書といえる図書が増えた。	3	3	生徒が図書選定に加わっているのはよいことだと思う。
	4 国公立大合格300名(現役250名)を目指す。	・学年や本校の特徴を把握し、強化や弱点の補強に努める。 ・学習内容の早期の履修完了と定着の両立に努める。 ・きめ細やかな学習指導や面談を行う。	・年間5回の面談期間を設定・実施し、「見てくれている」「見られている」ことを生徒に実感させる取り組みを行った。 ・各学年で学力検討会を年3回、加えて高3学年は、新旧担任連絡会、進路検討会、出願校検討会・報告会等を行い、学力の把握と伸長のための工夫に努めた。また、新共通テストに向けて教科ごとの傾向分析を行った。 ・学力の多極化や新共通テストに対するより具体的な教科・科目の工夫が必要である。 ・大学入試の多面的評価導入の加速化に対応するために、ポートフォリオの蓄積・活用・デジタル化を急がなくてはならない。	2	2.4	・個人的には数値や国公立志向はあまり賛成ではない。生徒の未来につながる進路指導をお願いしたい。 ・良い仲間や良い教師との出会いを大切にしたい。 ・良い仲間や良い教師との出会いを大切にしたい。その上で生徒達のよりよい自己実現に向けて、さらなる向上を期待したい。 ・高校生フォーラムにおけるヒアリングで各高校の生徒が「面談」「聞いてくれる場」を強く求めていることを毎年感じます。
西高ブランドの確立	1 理数科の育成充実を図る。	・各種大会やコンテストへの参加を推進する。 ・学習会や難関大講座の実施と参加の促進を行う。 ・講演会や大学や研究施設の訪問等を促進する。	・本年度は科学の甲子園、数学甲子園、プログラミングコンテストなどに多くの理数科生が参加した。また数学オリンピック予選にはジュニアを含め、150名近い参加があり、5名が本選出場を果たした。 ・5月と9月の3年生対象学習会は外部講師の授業を含め、生徒の期待に添う内容であった。3月の1年生対象の講座は計画通りに実施予定である。また、難関大講座も例年以上の参加者でスタートしており、生徒の進路実現に効果をもたらしている。 ・理数科講演会や東大研究会(夏・春)および施設訪問に多くの生徒が参加し、生徒の学習意欲の向上や進路選択に役立っている。	3	3	・参加した生徒に良い影響があるなら意義があると思う。
	2 普通科の育成充実を図る。	・普通科を理数科と切磋琢磨させる。	・普通科の理文クラスは講演会等について、できるだけ理数科と一緒に参加することで目的意識を高め、より高い目標を持たせるようにした。本年度は東京大学の山川雄司先生、TBSプロデューサー疋田智先生を講師に迎え講演会を実施した。 ・理数科・理文クラス教科指導研究会を年に2回実施し、教科担当者の教科指導力のレベルアップを図った。 ・高3では、理数科・理文クラス特別講座として、難関大合格に向けた学習会を実施した。	3	3	・個人的には、西高ブランドは、肩に力を入れすぎることなく、共に高いレベルで学び合う中で、自然と醸し出されるものではないかと考える。
	3 部活動を奨励する。	・礼節や規範意識を育成する。 ・文武両道の理念のもと、合理的かつ効率的な活動を実践する中で、一人一人の潜在能力を引き出す。	・定期的に部活動生集を開き、その都度、部活動の意義や目的を再確認させ、合わせて部室の管理や環境整備についても注意喚起を行った。 ・栄養に関する研修会を開き、合理的かつ効率的な活動の一助とした。 ・文化部・体育部ともに素晴らしい成果を収め、表彰式では多くの生徒が表彰された。 ・今年度の部活動加入率は76%であった。来年度は部活動を更に奨励し80%超えを目指す。	3	3	・部活動のも待った面にも注目が集まっている。生徒と教師の両方に意義のある取組で合って欲しい。
	4 東大合格13名(現役10名)を目指す。	・東大見学会や東大研修会を実施し、意欲を喚起する ・超難関大学講座、難関大学講座等を開講するとともに、医師体験講座等への参加を促す。	・2学年2学期からの超難関大・難関学部への指導開始時期を定着できただけでなく、1年時からの意識付けや掘り起こしを行った。1年の2学期に行った超難関大講座には52名が参加し、超難関大・難関学部を目指す生徒の把握と組織化ができた。 ・理数科の教科担任会等を通じて、超難関大研修会等で得られた情報の共有を図るとともに、各生徒の学力バランスを把握し、指導に活かすことができた。 ・「学力を伸ばす」仕掛け、3年間を通じた途中経過の把握と追跡等「学力の変容を見逃さない」ためのさらなる工夫が必要。 ・東大・京大の前期試験出願者は15+5(昨年度は12+8)。国公立医学部医学科・前期試験出願者は36(昨年度は18)本気で目指す生徒集団の育成にもうひとがんばりが必要。	2	2.2	・生徒の可能性を引き出す進路指導がなされていることを願う。 ・甥が東大文 ですが、学校と塾との連携がうまく行っていました。

\*1 さくら手帳 : 日々の授業や部活動のポイントを記録するノート。また、宿題やレポートの締め切り、試験の準備、練習試合といった日々の時間管理や今日の目標を明確にし、自己マネジメント力を向上させるための道具

\*2 コーチングブック : クラス担任と生徒たちのコミュニケーションの道具。生徒の進路支援や体調管理・学習支援のための送受信機能的機能を持つ。保護者とはコメント欄を通じて情報交換ができる。中学校ではデイリーライフとよんでいる。

重点 目標	評価項目	取組	方策・手だて、結果の考察・分析及び改善策 など	自己 評価	学校関係者評価	
						具体的意見
保護者・地域との連携及び保健・環境の充実	1 P T A 活動による学校支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA による登下校時の交通立ち番指導を行う。</li> <li>各種委員会の活動の充実をはかる。</li> <li>会員への情報を発信し、連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年委員会により、登下校時の交通立ち番指導を行い、生徒の交通安全に関する意識の高揚に努めた。</li> <li>父親委員会では、進路指導部と連携の下、保護者による職業講座「YUME 講座」<sup>4</sup>を実施することができた。母親委員会では、講演会や座談会を企画し、研修を深める活動ができた。また、広報委員会では編集会議を重ね、学期ごとに広報誌の発行を行った。</li> <li>携帯メール通信の活用回数は増えた。今後、登録者数の増加に繋がる手だてが必要である。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携は重要と思う。双方に負担のない連携を願う。</li> <li>朝の立ち番等、保護者・職員が熱心に取り組んでいる姿に感心している。八所付近の交差点の横断も中学生を中心に向上したと思う。</li> <li>交通事故防止、非行防止の観点からも PTA の活発な活動をお願いしたい。</li> </ul>
	2 学校の P R 活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>H P やフェイスブックの更新による情報発信を行う。</li> <li>中学校訪問、中学校対象説明会・学習塾対象説明会を実施する。</li> <li>在校生主体のオープンスクールを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事や案内等の鮮度の高い情報発信に努めた。次年度は各学年別に Facebook 担当者を配置し、更なる情報発信を目指す。</li> <li>学習塾からの事前質問に対する回答を円滑に行うための方法が課題である。今後も丁寧な説明と情報の共有を目指しさらなる信頼関係の構築に努める。</li> <li>100 名を超える生徒実行委員の協力により有意義なオープンスクールが実施できた。また、簡易クーラーと飲料水を準備して熱中症対策を十分にを行った。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>FB は頻繁に投稿されているが、それに比べると HP はセクションによっては古い記事が見られる。</li> </ul>
	3 耕心 <sup>3</sup> の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動の徹底を図る。</li> <li>安全点検の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会を中心に生徒主導で校内美化活動に取り組めるようにした。</li> <li>全校集会などで校内美化についての現状を生徒に伝え、主体的に美化活動に取り組めるように啓発活動を実施した。</li> <li>校内の環境安全のために生徒にも安全点検に参加してもらった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的に」ということが重要だと思う。</li> </ul>
	4 健康観察を充実徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任は生徒一人一人呼名しながら健康観察を行った。</li> <li>毎朝担任が健康観察を行い、健康観察簿を確実に提出するようにした。</li> <li>持久走大会・体育大会・球技大会の時は特別に健康観察票を作成して入念に行った。</li> <li>保健室便りを用いて、健康管理についての意識付けを行えた。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛暑など生徒の健康に特に注意を要する時も細かなケアをお願いしたい。</li> </ul>
	5 教育相談による生徒支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年ライフスキル学習を実施</li> <li>毎週教育相談委員会の中で不登校生徒の把握と対応の検討</li> <li>年 3 回の教育相談アンケートを実施</li> <li>本校に実態にあった職員研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフスキル学習を 1, 2 学期に実施できた。</li> <li>時間割に教育相談委員会を位置づけ、生徒の現状の共通理解、支援方針について検討を行った。</li> <li>相談アンケートをもとに、面談指導を実施できた。</li> <li>発達障害をもつ生徒の理解のための職員研修会を 1 0 月に実施できた。</li> <li>スクールカウンセラーの拠点校となり、スクールカウンセラーとの連携が図れた。</li> </ul>	2	2.3	
附属中学校の充実	1 知性を育む授業を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導や高校教員による授業を充実させる。</li> <li>授業力向上のための研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語科においては 3 学年とも中学籍、高校籍の教員が協力しながら少人数授業を行うことができた。今後は、中高のそれぞれの担当教員の持つ力を十分生かす連携ができる仕組みを工夫する必要がある。</li> <li>数学科においては中学 3 年生のみ、習熟度別で分けた少人数授業を行い、上位層を高校籍の教員、それ以外を中学籍の教員が受け持った。進度が同じであるため、上層の方はより専門的な内容まで取り扱うことができた。来年度からは全学年均等割で授業を行う。</li> <li>県教育委員会義務教育課による 2 度の支援訪問を実施し、中学校職員全員の授業力向上のための取組を行った。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に関しては教員より少人数を 1 人で行うよりも大きな学級でも TT で行う方がやりやすい人もいると聞くので、いろいろ試してみてもどうか。</li> <li>中学と高校の職員の交流が進んでいることは大変意義深いと思う。都合 6 力年を過ごす生徒と、高校からの生徒らとのさらなる切磋琢磨を期待したい。</li> </ul>
	2 人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育の充実や基本的生活習慣の確立、面談を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業を、学年に応じて計画的に実施することができた。</li> <li>学期に 1 回の学校生活アンケートで生徒の悩みを把握し、2 者面談を通して生徒の心のケアを行った。</li> <li>長期休暇を利用して、3 者面談を希望者対象で実施し、保護者や生徒の思いを把握するとともに、今後の学校生活や学習面へのアドバイスを行うことができた。</li> </ul>	3	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>多感な時期を支えていただきたい。</li> <li>中学生に対して、宮崎南警察署が実施している情報モラル教育や薬物乱用防止教室などの活用をお願いしたい。</li> <li>勉強は出来るが、それ以外の社会的スキルが弱すぎる。考えて行動できていない。</li> </ul>
	3 特色ある教育活動を推進し、創造性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性<sup>5</sup>・探究<sup>6</sup>・プレゼンテーション<sup>7</sup>・サイエンス<sup>8</sup>の内容を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性においては、国語科の分野で「美しい話し方」、「古典に親しむ」、社会科の分野で「平和を語り継ぐ」、「消費税について考える」、「地方創生」などの学習で外部講師を招き、専門的な知識に触れることで感性を育むことができた。</li> <li>探究においては、中 1 での青島巡検や中 2 での綾照葉樹林の植生調査などを通して、自然環境への関心を高めることができた。なお、種子屋島久島でのフィールドワークは、来年度より毎年 3 月で実施することになったため、今年度は行っていない。</li> <li>プレゼンテーションにおいては、本校 A L T を活用し、外国語で表現する学習を充実させ、修学旅行でのインタビューや English Day<sup>9</sup>で身に付けた表現力を発揮することができた。</li> <li>サイエンスにおいては、身近な疑問を数学で解いたり、仲間と協力して難問に取り組んだりして数学への興味・関心を高めることができ、数学オリンピックに意欲的に挑戦する生徒が増えた。</li> <li>第 6 回科学の甲子園ジュニア全国大会に、県代表として 5 回目の出場を果たした。今後も才能のある生徒を生かす場として挑戦をさせていきたい。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な試みをしているのは良いことと思うし、良く報道されているので広報にもつとめていたすばらしいと思う。</li> </ul>
	4 3 年生 8 0 名全員の理数科進学を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導やキャリア教育を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理数科進学オリエンテーションを通して、理数科主任が話をしたり、授業参観させたりすることで、理数科進学後の学習や生活に対する意欲を高めることができた。</li> <li>探究や感性や外部講師による講話では、キャリア教育的視点に立った話題を必ず入れることを依頼した。10 月には、宮崎日伊協会の協力で、イタリアのカリアリ大学ミリアム・メリス教授による生物学に関する講演会を行い、その中で外国人のキャリアについての考え方を学ぶことができた。</li> <li>学級活動の進路学習では、大学の学部や学科等について調べさせることで、将来の大学進学に向けての意識を高めさせることができた。</li> <li>中学校の授業を多くの高校籍の教師が担当しているので、理数科進学後を意識した指導や話題に触れることが効果的と考える。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の幸せが実現する進路指導をお願いしたい。</li> <li>本来のキャリア教育に立ち返って少し社会に触れさせる仕組みや工夫があっても良いのではないか。</li> </ul>

\*3 耕心 : 無言で行う清掃活動。自ら心を耕し、心を磨くという意味を込めて、自立心、自問心、愛校心を育むために平成 1 8 年から始まった。

\*4 YUME 講座 : YUME とは、Youthful (若者らしい) Undiscovered (未知の) Merit (価値) Educate (導き出す) を意味し、キャリア教育の一環として、将来への「夢」を大きくふくらませる機会としている。30 名を超える講師を募り、「職業選択の過程」・「やりがいや厳しさ」・「実社会で要求される能力やマナー」等について率直に語っていただくことで、子ども達の進路意識の高揚を図るとともに、将来の進路目標に関わる情報を得る機会として活用している。

\*5 感性 : 古典や詩歌の世界や地域・郷土について学ぶ学習等とおして、豊かな人間性を育み、感性を磨く。郷土への誇りや、郷土を主体的に捉える感性を培い、郷土の未来と国際社会における自分の生き方を考えさせ、社会に貢献しようとする態度を育てる授業。

\*6 探究 : 科学分野の学習。問題を解決する力や、実験データのまとめ方や、考察の仕方を身に付けさせる。フィールドワーク体験により地域の自然環境への興味・関心を高める。大学の先生を講師とする授業により先端の技術や研究にふれさせる授業。

\*7 プレゼンテーション : 今後の社会で必要となる英語を自由に活用する力の育成を図るとともに、外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養う。また、言語や文化に対する関心を深め国際理解の基礎を培う授業。

\*8 サイエンス : 教科書では扱わない問題に取り組むことで数学への興味関心や問題解決力を育成する。また、科学の分野で数学を活用する力の育成を図る授業。

\*9 English Day : 中学 3 年生が生目の杜遊古館で実施する、これまでの英語の学習の集大成として 1 日中英語のみで活動する取組。本年度は 12 月に実施し、10 名の ALT と共に交流会やゲーム、本格的なディベート等を行った。